

## 計画実行・監視専門調査会 これまでの議論の整理

### ・科学技術分野における女性の活躍促進について

計画実行・監視専門調査会（令和3年10月26日開催の第5回）において委員から出された意見を論点ごとに記載したものを。

#### （要因分析）

女子は義務教育時点では数学が不得意ではないにもかかわらず、理系の進路選択が少ない理由や数学が受験科目にない私立文系が選ばれる理由について、学費の問題等も加味して深掘りし、分析を行うべきではないか。

例えば法学部などもかつては女子割合が低かったが、現在は理工系よりは高い割合となっている。女子学生が増えた理由や大学等で行われた取組について検証し、参考としてはどうか。

#### （目標設定）

第5次男女共同参画基本計画の成果目標達成は未だ程遠い段階にある。科学技術分野の研究は、大学や公的機関、民間機関の様々な主体において行われているところ、大学や公的機関においては民間より一層高い目標を掲げ、範を示すべき。また、研究者同士の結婚・共同生活の例は多いが、女性側に家事や育児等の負担が偏りがちとの指摘がされている。このため、男性研究者の育児休業取得率の目標を定めてはどうか。

#### （積極的是正措置）

女性を対象とした女性活躍推進施策だけではなく、あらゆる施策にジェンダー平等の視点を主流化していくことが必要であり、それが国際潮流となっている。例えば、大学ファンドにおいては機関投資家が主要なステークホルダーになるが、投資判断に男女間賃金格差や経営ポジションにおける女性比率など、ジェンダーに関する評価軸を活用している。大学等の経営層がジェンダー平等に関する世界の動向に対して高い認識を持つ必要がある。

理工系等、女子学生の占める割合の少ない分野の大学入学者選抜における女子学生枠の確保等に積極的に取り組む大学等に対しては、運営費交付金や私学助成による支援を行う。一層のインセンティブ強化として、運営費交付金や競争的資金助成の評価項目に、経営層や研究者の女性比率を採り入れるべきである。

学会主催のシンポジウム等について、助成の条件として、登壇者等における一定の男女比を義務付けるべきである。

#### （両立支援）

女性研究者は出産・育児等のライフイベントによって研究期間に遅れが生じ、そのまま回復できないという状況が観察されている。科研費等における年齢制限を5年以上伸ばす、特別研究員制度（RPD）の採用期間を3年から5年に延ばすなど、ライフイベントへの配慮を一層高めてはどうか。

また、夫婦ともに研究者で勤務先等の都合で別居しているケースも多い。この場合、子供は女性研究者が同居して育てることが多く、女性研究者の大きな負担となっている。夫婦雇用制度の推

進や移動可能なパーマナント研究職など、同居支援を早急に検討すべきである。

(「見える化」)

国公立大学医学部医学科の入学選抜については、受験者数、合格者数及び男女別合格率が公表されている。他の学部についても同様の公表を行い、プロセスを常に「見える化」すべき。

(進路選択の支援)

女子が幼少期に理系教育に触れる経験を得るには、地域性や保護者の所得の影響が大きいのではないかと。住む地域や保護者の所得にかかわらず、幼少期に科学に触れて好奇心を刺激する体験を得られるよう支援すべきである。

また、数学や理科が現実には職業の中で生かされているとわかることで、理系志望が増えることもあるため、学校の授業の中では具体的な事例を用いてキャリアとの接続を示す必要がある。

(女子の理系選択促進に向けた具体的提案)

#### ①高等教育での文系・理系の廃止

現在、平均的な高校では、教育課程の途中で進学先を文系にするか理系にするかの判断が求められ、それぞれ異なるクラスで文系と理系の大学入試に沿った科目の受講をすることが多い。この制度を改め、高等教育では、文系・理系のコアの科目は全て必須とする。

#### ②高校における大学の授業の先んじた受講

①のとおりコア科目は文系理系ともに必須とした上で、高校の教育課程において、得意科目を先んじて受講できる制度を導入する。米国の高等教育にあるように、大学の授業の高校での受講を可能にするAP(Advanced Placement)の導入を行う。これを行うためには柔軟なカリキュラムの作り方が必須となる。

#### ③大学受験の変革＝学部入学の撤廃

米国の大学のほとんどが行なっているように、受験は学部ではなく学校単位で入学選考を行う。これを行うことにより、高校生は、高校時代に自分の将来を左右する文系と理系の選択、さらに文系及び理系の中での文学部や工学部という専攻の選択をする必要がなくなり、大学の2年間での専門教育を経て、自分により合った専攻の選択ができるようになる。